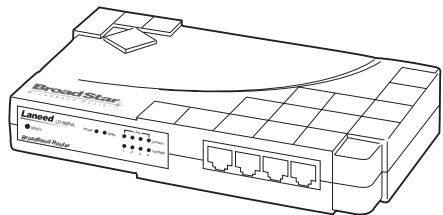


BroadStar
Broadband Router



Broadband Router

4ポートブロードバンドルータ

LD-BBR4L

必ずお読みください	P1~12
接続する	P13~14
コンピュータ側の設定	P15~20
インターネットへの接続	P21~30
設定ユーティリティのリファレンス	P31~48
必要に応じてお読みください	P49~55

User's Manual

4ポートブロードバンドルータ LD-BBR4L

User's Manual ユーザーズマニュアル

■ はじめに ■

この度は、弊社ラニードのブロードバンドルータシリーズをお買い上げいただき誠にありがとうございます。このマニュアルはスイッチングHUB機能を搭載した4ポートブロードバンドルータ"LD-BBR4L"を導入するにあたっての手順が説明されています。また、お客様が"LD-BBR4L"を安全に扱っていただくための注意事項が記載されています。導入作業を始める前に、必ずこのマニュアルをお読みになり、安全に導入作業をおこなって製品を使用するようにしてください。なお、このマニュアルでは、一部の表記を除いて"LD-BBR4L"のことを「本製品」と表記しています。

このマニュアルは、製品の導入後も大切に保管しておいてください。

ご注意

- 本製品の仕様および価格は、製品の改良等により予告なしに変更する場合があります。
- このマニュアルの著作権は、エレコム株式会社が所有しています。
- このマニュアルの内容の一部または全部を無断で複製/転載することを禁止させていただきます。
- このマニュアルの内容に関しては、製品の改良のため予告なしに変更する場合があります。
- このマニュアルの内容に関しましては、万全を期しておりますが、万一ご不審な点がございましたら、弊社ラニード・サポートセンターまでご連絡ください。
- 本製品のうち、戦略物資または役務に該当するものの輸出にあたっては、外国為替法に基づく輸出または役務取引許可が必要です。
- 本製品は日本国内での使用を前提に製造されています。日本国外での使用による結果について弊社は一切の責任を負いません。また、本製品について海外での保守、サポートはおこなっておりません。
- Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。そのほか、このマニュアルに掲載されている商品名/社名などは、一般に各社の商標ならびに登録商標です。本文中における®および™は省略させていただきました。

●このマニュアルで使われている記号

記 号	意 味
	作業上および操作上で特に注意していただきたいことを説明しています。この注意事項を守らないと、けがや故障、火災などの原因になることがあります。注意してください。
	説明の補足事項や知っておくと便利なことを説明しています。
	キーボード上のキーを表わします。

安全にお使いいただくために

Lanreed

けがや故障、火災などを防ぐために、ここで説明している注意事項を必ずお読みください。

	警告	この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などによる死亡や大けがなど人身事故の原因になります。
	注意	この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり、他の機器に損害を与えたりすることがあります。



 小さな子供のいるそばで、取り付け取りはずしの作業をおこなわないでください。
また、子供のそばに工具や部品を置かないようにしてください。
けがや感電をしたり、部品を飲み込んだりする危険性があります。

 本製品の取り付け、取りはずしのときは、必ずコンピュータ本体および周辺機器メーカーの注意事項に従ってください。

 本製品の分解、改造、修理をご自分でおこなわないでください。
火災や感電、故障の原因になります。また、故障時の保証の対象外となります。

 本製品から煙やへんな臭いがしたときは、直ちにACコンセントからACアダプタを抜いてください。そのあと、ご購入店などにご連絡ください。
そのまま使用すると、火災や感電、故障の原因になります。

 本製品に水などの液体や異物が入った場合は、直ちにACコンセントからACアダプタを抜いてください。そのあと、ご購入店などにご連絡ください。
そのまま使用すると、火災や感電、故障の原因になります。

 本製品を水を使う場所や湿気の多いところで使用しないでください。
火災や感電、故障の原因になります。



 本製品の取り付け、取りはずしのときは慎重に作業をおこなってください。
強引な着脱は、機器の故障や、けがの原因になります。

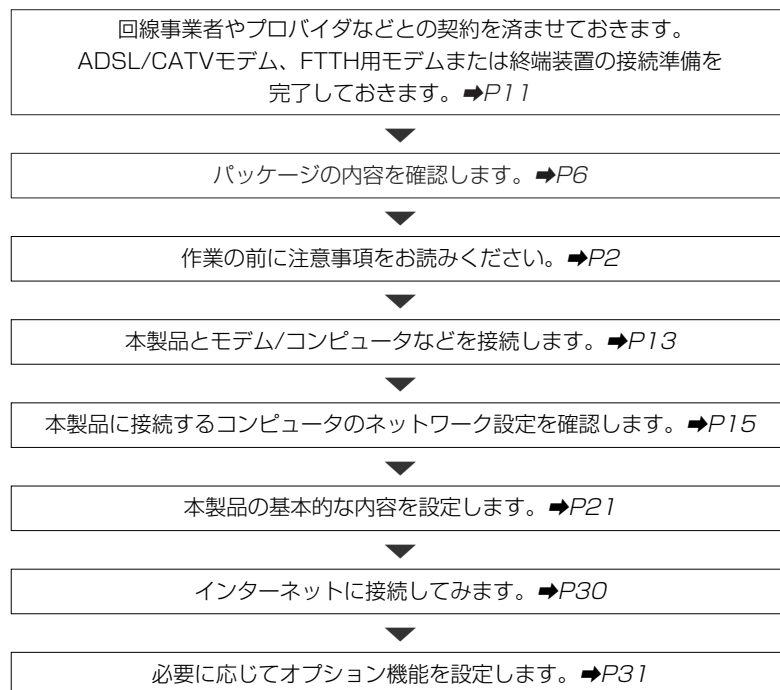
 本製品を次のようなところで使用しないでください。
・高温または多湿なところ、結露を起こすようなところ
・直射日光のあたるところ
・平坦でないところ、土台が安定していないところ、振動の発生するところ
・静電気の発生するところ、火気の周辺

 長期間、本製品を使用しないときは、ACアダプタを抜いておいてください。

この装置は、現在設置されている場所で妨害波の測定がされた情報技術装置です。この場所以外で使用する場合は、その場所で、再び妨害波の測定が必要となります。

導入の手順フロー

Laneed



●導入後はユーザ登録(➡P7参照)をおこなってください。

もくじ

Laneed

はじめに	1
安全にお使いいただくために	2
導入の手順フロー	4
もくじ	5

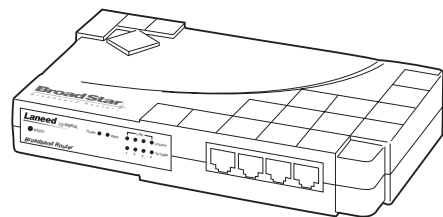
1. パッケージの内容を確認する	6	8. 設定画面のリファレンス	31
2. 製品の保証とユーザ登録	7	変更した設定を有効にするには	31
3. 本製品の概要について	8	基本設定の設定画面	33
本製品の特長	8	ファイヤウォール	34
本製品の動作環境	9	バーチャルサーバ	35
各部の名称とはたらき	10	特殊AP	36
4. 作業の前に必要なこと	11	クライアント フィルタリング	37
5. 本製品を接続する	13	その他の項目	39
6. コンピュータ側の設定を 確認する	15	PPPoE MTU	40
Windows XPでの設定	15	ステータス	41
Windows Me/98/95での 設定	17	ツール	43
その他のOSでの設定	20	設定をバックアップする	44
7. インターネットへ接続する	21	ファームウェアを更新する	47
設定ユーティリティを 表示する	21	9. ごんなときは	49
基本設定をおこなう	22	インターネットに接続できない	49
インターネットに接続する	30	IPアドレス等がわからない	51
		リセットの方法	52
		10. サポートサービスについて	53
		11. 基本仕様	55

1 パッケージの内容を確認する

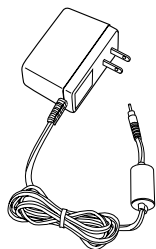
Laneed

本製品のパッケージには、次のものが入っています。作業を始める前に、すべてが揃っているかを確認してください。なお、梱包には万全を期しておりますが、万一不足品、破損品などがありましたら、すぐにお買い上げの販売店または弊社ラニード・ブロードバンドルータ専用サポートまでご連絡ください。

- 4ポートブロードバンドルータ
LD-BBR4L 1台



- ACアダプタ 1個
本製品専用のアダプタです。



- ユーザ登録カード 1枚



- 保証書 1枚



2 製品の保証とユーザ登録

Laneed

製品の保証とサービス

本製品は、保証書が付いています。内容をお確かめの上、大切に保管してください。

●保証期間

保証期間はお買い上げの日より1年間です。保証期間を過ぎての修理は有料になります。詳細については保証書をご覧ください。保証期間中のサービスについてのご相談は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

●保証範囲

次のような場合は、弊社は保証の責任を負いかねますので、ご注意ください。

- ・弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障
- ・本製品をお使いになって生じたデータの消失、または破損
- ・本製品をお使いになって生じたいかなる結果および、直接的、間接的なシステム、機器およびその他の異常

●修理の依頼

33ページ「修理の依頼」をお読みください。

●その他のご質問などに関して

53ページ「10.サポートサービスについて」をお読みください。

ユーザ登録

製品の導入が完了したらユーザ登録をおこなってください。お客様のユーザ登録は、インターネットからのオンライン登録または付属のハガキで登録することができます。

●オンラインでの登録

弊社ラニード・ホームページから登録が可能です。

ホームページアドレス：<http://www.elecom-laneed.com>

●付属のユーザ登録カードでの登録

必要事項をご記入の上、ご投函ください。品番とシリアル・ナンバーは控えておいてください。裏面のアンケートにもお答えください。ご意見は、今後の製品開発などに役立てていきます。

3 本製品の概要について

Laneed

本製品の特長

●テストパターンで約36Mbps※の高スループットを実現

テストパターンで約36Mbpsの高スループットを実現しました。ADSL8MbpsサービスやBフレッツの10Mbpsサービスでも満足のいくスループットを得られます。

※当社テストによります。

●WAN側も100Mbps対応

LAN側ポートだけでなく、WAN側ポートも10/100Mbpsに対応しています。WAN側が100Mbpsに対応したことで、FTTH回線での高速インターネットサービスでも、そのパフォーマンスを十分に発揮できるようになりました。

●4ポート10/100Mbpsスイッチング機能を搭載

10/100Mbps対応のスイッチングHUBを4ポート搭載しています。最大4台のコンピュータを本製品に接続できるほか、他のHUBとカスケード接続することでさらに多くのコンピュータと接続することができます。

●PPPoE接続に自動対応

PPPoE(PPP over Ethernet)に対応していますので、PPPoEによる認証が必要なインターネット・サービス・プロバイダに接続する場合でも自動的に接続できます。

●プロバイダと1契約で複数のコンピュータからアクセス可能

NAT/IPマスカレード機能により、グローバルIPアドレスをローカルIPアドレスに自動的に変換します。これにより、ひとつのグローバルIPアドレスで複数のコンピュータからインターネットへの同時アクセスができるようになります。プロバイダとは1契約だけでかまいません。

●TCP/IPプロトコルならWindowsマシン以外でもインターネットへ接続可能

Windowsマシンに限らずMacintosh、Linuxなど、TCP/IPプロトコルが設定できるOSであれば、本製品を経由してインターネットに接続することができます。

●ブラウザ対応の設定ユーティリティによる簡単設定

専用ソフトを必要とせず、Webブラウザから設定ユーティリティにアクセスすることで各種設定ができます。また、ファームウェアのアップグレードも設定ユーティリティ上で実行することができます。

●わずらわしい設定が不要なDHCPサーバ機能を搭載

DHCPサーバ機能により、各クライアントにローカルIPアドレスを自動的に割り当てることができます。

●ネットワーク対戦ゲームなども利用可能

特定のコンピュータのIPアドレスを固定したり、DMZ機能を使用することができますので、ネットワーク対戦ゲームを楽しめます。

※一部対応しないアプリケーションもあります。

●ファイヤウォール機能を搭載

NAT/IPマスカレードによりWAN側からLAN側のコンピュータには簡単にはアクセスできません。さらにWAN側から特定のアタックソフトを使った攻撃があった場合にログに保存するファイヤウォール機能があります。

●PPPoEのMTU値を設定可能

PPPoE接続の場合、ご使用の環境に合わせてMTU値を「1440」～「1492」の間で調整することができます。これによりスループットの向上が期待できます。

●特殊AP機能を搭載

インターネットゲーム、ビデオ会議、インターネット電話などのアプリケーションを利用可能にする特殊AP機能を搭載しています。

●バーチャルサーバ機能に対応

ローカルネットワークにある特定のコンピュータだけにWAN側からのアクセスを許可することができます。これにより特定のコンピュータをサーバマシンとして使用することもできます。

●各種フィルタリング機能を搭載

WAN側からのLAN側へのアクセスを制限するフィルタリング機能に対応します。アクセスを制限できるのは、IPアドレス単位、パケット単位、ポート単位の3種類です。さらにこれらのアクセス制限を時間で制限することもできます。

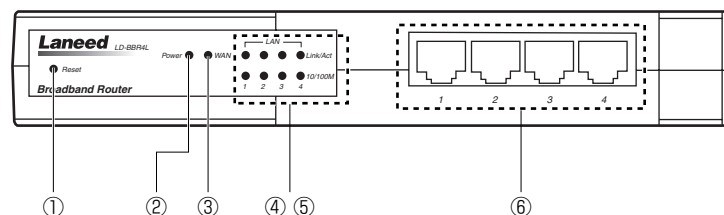
本製品の動作環境

本製品はTCP/IPプロトコルを利用できるOSと搭載したコンピュータで使用できます。接続可能な回線事業者などの動作確認情報は、弊社ラニードホームページでご確認ください。

ラニードホームページ URL= <http://www.elecom-laneed.com>

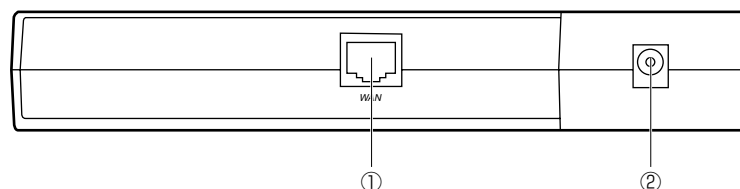
各部の名称とはたらき

■前 面



①	Resetスイッチ	本製品を工場出荷時の初期状態に戻すときに使用します。52ページ「リセットの方法」をご覧ください。
②	Powerランプ	本製品の電源が入っているときに点灯します。
③	WANランプ	WAN(インターネット)側と接続しているときに点灯します。また、インターネットとデータの送受信をしているときに点滅します。
④	LANランプ (Link/Act)	LAN側のコンピュータなどと接続しているときに点灯します。また、表示番号のポートに接続されたコンピュータなどとデータを送受信しているときに点滅します。
⑤	LANランプ (10/100M)	接続先が100BASE-TXのときに点灯します。10BASE-Tのときは消灯しています。
⑥	LANポート	LAN側のコンピュータなどを接続します。

■背 面



①	WANポート	ADSL/CATVモデムやFTTH用モデム/終端装置からのイーサネットケーブルを接続します。
②	電源ジャック	本製品に付属のACアダプタの電源プラグを差し込みます。本製品に付属のACアダプタ以外は絶対に使用しないでください。

4 作業の前に必要なこと

Laneed

本製品は単独では利用できません。以下の準備が完了していることを確認してから接続作業を始めてください。

回線事業者/インターネット・サービス・プロバイダ(ISP)との契約

●回線工事は完了していますか？

ADSLのインターネット接続サービス業者との契約は完了していますか。また、屋内までの配線工事は完了していることを確認してください。

●回線事業者/プロバイダとの契約は完了していますか？

ADSL接続サービスでは、フレッツADSLのように回線事業者とは別にプロバイダとの契約が必要な場合があります。このような場合は、契約した回線事業者で利用可能なプロバイダとADSL接続での契約をする必要があります。この契約が完了していないと回線が接続されていてもインターネットへアクセスすることはできません。

●モデムなどの機器は準備できていますか？

ADSL/CATVモデムやFTTH用モデムまたは終端装置と本製品を接続する必要があります。モデムを別途購入されるように契約している場合は、対応モデムをご用意いただく必要があります。

●パソコン側の必要な機器は準備できていますか？

本製品と接続するネットワーク機器には無線LANアダプタまたはイーサネットポートが搭載されている必要があります。コンピュータ本体などに内蔵されていない場合は、別途イーサネットアダプタなどをセットアップしてください。各機器のセットアップ方法はそれぞれのマニュアルをお読みください。

●必要なケーブルをご用意ください

ご使用の環境に合わせて、必要なケーブルをご用意ください。

- ・モデム/終端装置～本製品間でストレートのイーサネットケーブルが1本必要です。
- ・本製品の有線LAN用のLANポートと接続するネットワーク機器の台数に合わせたイーサネットケーブルが必要です。10Mbps環境で接続する場合は、カテゴリ3以上のケーブルをご用意ください。100Mbpsの場合は、カテゴリ5以上のケーブルをご用意ください。

設定に必要な情報の準備

本製品を設定するには、回線事業者/プロバイダから提供された情報が記載された資料を準備しておいてください。

●一般的な情報の例

名 称※	内 容
IPアドレス	インターネットに接続するためのグローバルIPアドレスです。IPアドレスを固定的に割り当てる場合に必要です。インターネットに接続したときにプロバイダが自動的に割り当てる場合は不要です。
サブネットマスク	IPアドレスを固定的に割り当てる場合に必要です。
デフォルトゲートウェイ	IPアドレスを固定的に割り当てる場合に必要です。
DNSサーバアドレス	ご利用になるサービスによって必要な場合があります。プライマリとセカンダリの2種類があります。
ドメイン名	ご利用になるサービスによっては、設定が必要な場合があります。
ユーザ名/パスワード	PPPoEで接続する場合に必要です。
サービス名	PPPoEで接続する場合に必要なことがあります。

※これらの情報の名称は回線事業者/プロバイダによって異なります。

5 本製品を接続する

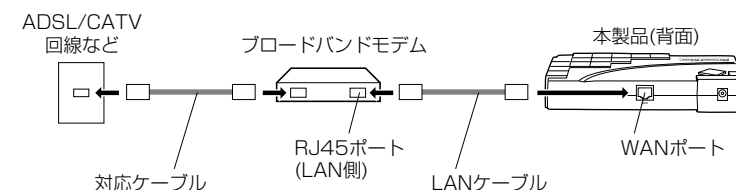
Lanreed

本製品の接続方法について説明します。なお、ここではADSL/CATV/FTTHなどの各回線のモデムおよび終端装置をまとめて「ブロードバンドモデム」と表記して説明しています。

1 すべての機器の電源が切れていることを確認します。

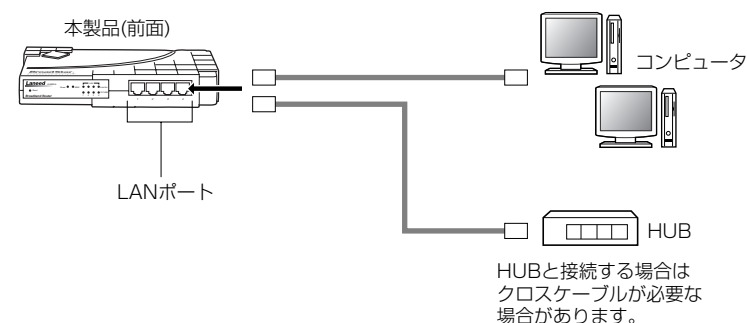
2 ご契約された接続方法に合わせて回線とモデムを接続し、さらに本製品を接続します。

- ・WAN(インターネット)側とブロードバンドモデムを接続します。
- ・ブロードバンドモデムのLAN側のポートと本製品のWANポートをLANケーブルで接続します。

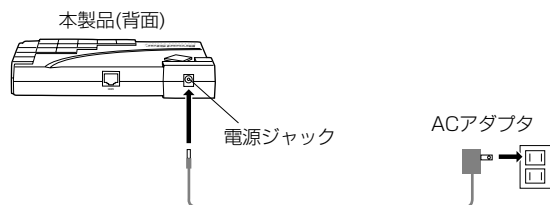


※ADSL回線の場合、アナログ電話機と分岐するためのスプリッタが接続されている場合があります。

3 本製品のLANポートとコンピュータまたはHUBを接続します。



- 4** 本製品に付属のACアダプタをACコンセントに差し込み、電源プラグを本製品の電源ジャックに差し込みます。



- 5** ブロードバンドモデムの電源を入れます。

- 6** 本製品の前面パネルにあるランプを確認します。

- ・ブロードバンドモデムと本製品の電源が入った状態でWANランプが点灯していることを確認します。
- ・コンピュータの電源が入った状態でLink/Actランプが点灯していることを確認します。100Mbps環境では、10/100Mランプがオレンジ色に点灯します。

MEMO

WANランプが点灯しない場合は・・・

- ①ブロードバンドモデムにあるWANとの接続を示すランプは点灯しているか確認してください。点灯していない場合は、WAN側と正しく接続されていません。
- ②ケーブルのコネクタがしっかりと差し込まれているかを確認してください。
- ③ブロードバンドモデムにMDI-Xスイッチ(結線のストレートとクロス接続を切り替えるスイッチ)を切り替えて点灯するかどうか確認してください。点灯した場合はそのままの設定にしてください。

Link/Actランプが点灯しない場合は・・・

- ①ケーブルのコネクタがしっかりと差し込まれているかを確認してください。
※HUBと接続する場合はクロスケーブルが必要な場合があります。
- ②コンピュータのデバイスマネージャでアダプタが正常に動作しているか確認してください。

6 コンピュータ側の設定を確認する

Lanet

本製品を使ってインターネットへアクセスするコンピュータは、TCP/IPプロトコルに関する設定が必要です。ここでは、TCP/IPプロトコルの設定を確認する方法を説明します。すでにTCP/IPの設定が完了している場合は、21ページ「7. インターネットへ接続する」へ進みます。

MEMO

TCP/IPプロトコルを使用できるコンピュータであればOSを問わず本製品を利用してインターネットに接続することができます。

Windows XPでの設定

Windows XPでのTCP/IPに関する設定について説明します。なお、画面例はWindows XP Home Editionを使用しています。

TCP/IPプロトコルの登録確認

- 1** [スタート]→[コントロールパネル]を選択し、「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。
- 2** <ネットワークとインターネット接続>画面で「ネットワーク接続」をクリックします。
- 3** 「ローカルエリア接続」を選択し、[ファイル]→[プロパティ]を選択します。



- ・<ローカルエリア接続のプロパティ>画面が表示されます。

4 一覧にTCP/IPプロトコルが登録されて、有効になっていることを確認します。



・無効 ☐ になっている場合は、☐ をクリックして有効 ☒ にしてください。



ご使用の環境により実際に一覧に表示されるイーサネットアダプタの名称やコンポーネントの内容は、この画面例とは異なります。

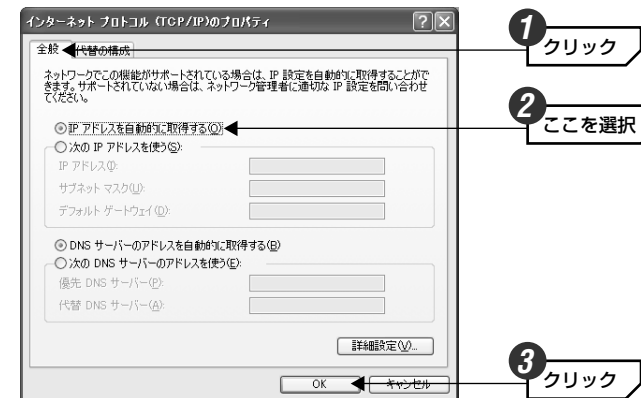
IPアドレスの設定を確認する

〈ローカルエリア接続のプロパティ〉画面を表示した状態で、そのままIPアドレスの設定を確認します。

1 【全般】タブの一覧でTCP/IPプロトコルを選択し、[プロパティ] ボタンをクリックします。



2 【全般】タブにある「IPアドレスを自動的に取得する」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。



DHCPサーバーを使用しない場合

IPアドレスを固定する必要がある場合などDHCPサーバーを使用しないときは、「次のIPアドレスを使う」を選択し、「IPアドレス」「サブネットマスク」を設定してください。必要に応じて、「デフォルトゲートウェイ」「優先DNSサーバー」「代替DNSサーバー」も設定してください。

Windows Me/98/95での設定

Windows Me/98/95でのTCP/IPに関する設定について説明します。なお、画面例はWindows Meを使用しています。Windows 98/95の画面と一部名称等が異なりますが設定する内容については同じです。

TCP/IPプロトコルの登録確認

利用するプロトコルとしてTCP/IPが登録されていることを確認します。

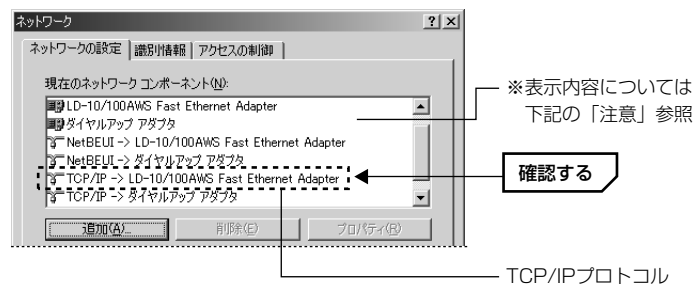
1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]の順に選択し、コントロールパネルにある「ネットワーク」をダブルクリックします。



ネットワーク

- ・〈ネットワーク〉画面が表示されます。
- ・Windows Meでよく使うコントロールパネルだけが表示されている場合は、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックすると「ネットワーク」が表示されます。

- 2** 「現在のネットワークコンポーネント」の一覧にTCP/IPプロトコルが登録されていることを確認します。



- ご使用の環境により実際に一覧に表示されるイーサネットアダプタの名称やコンポーネントの内容は、この画面例とは異なります。
- アダプタがひとつしかない場合は、「TCP/IP」とだけ表示されます。ダイヤルアップアダプタなどがあるため、アダプタ名が複数ある場合は、「TCP/IP->(アダプタ名)」というように表示されます。(アダプタ名)に、ご使用中のイーサネットアダプタのアダプタ名が表示された「TCP/IP」プロトコルがあることを確認してください。

MEMO

TCP/IPが登録されていない場合は・・・

- ①【ネットワークの設定】タブを表示した状態で **追加** ボタンをクリックします。
- ②一覧から「プロトコル」を選択し、**追加** ボタンをクリックします。
- ③「製造元」で「Microsoft」を選択すると、プロトコルの一覧が表示されます。
- ④プロトコルの一覧から、「TCP/IP」を選択し、**OK** ボタンをクリックします。
「現在のネットワークコンポーネント」にTCP/IPプロトコルが追加されます。
- ⑤ネットワーク画面を閉じるときに、Windows CD-ROMを要求されることがあります。この場合は、Windows CD-ROMをドライブに挿入し、メッセージに従ってください。
- ⑥再起動を促すメッセージが表示されますので、再起動してください。

IPアドレスの設定を確認する

〈ネットワーク〉画面を表示した状態で、そのままIPアドレスの設定を確認します。

- 1** 「現在のネットワークコンポーネント」の一覧でTCP/IPプロトコルを選択し、**プロパティ** ボタンをクリックします。

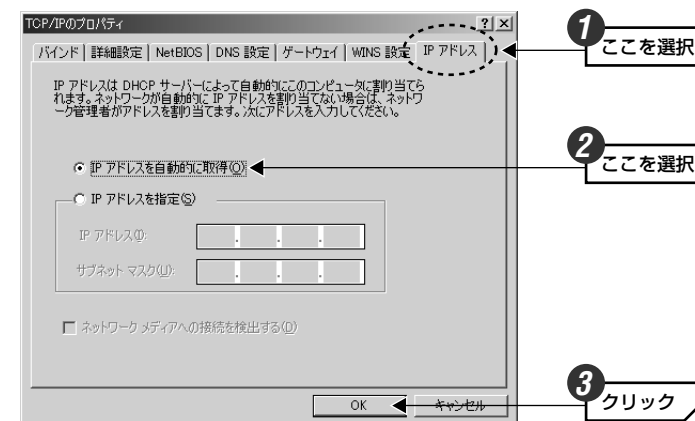


MEMO

TCP/IPプロトコルが複数登録されている場合

ダイヤルアップアダプタなどが登録されているため、複数のTCP/IPプロトコルが表示されていることがあります。このような場合は、本製品と接続しているイーサネットアダプタ名称のTCP/IPを選択します。

- 2** 【IPアドレス】タブを表示します。通常は「IPアドレスを自動的に取得」を選択し、**OK** ボタンをクリックします。



MEMO

DHCPサーバを使用しない場合

IPアドレスを固定する必要がある場合などDHCPサーバを使用しないときは、「IPアドレスを指定」を選択し、IPアドレスとサブネットマスクを設定してください。

その他のOSでの設定**Windows 2000/NT 4.0などでの設定**

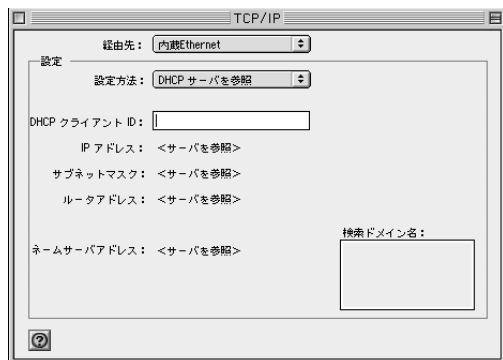
Windows 2000およびWindows NT 4.0でご使用になる場合は、サーバおよび各クライアントのネットワーク設定でTCP/IPプロトコルが設定されていることを確認してください。また、本製品および各クライアントのIPアドレスの設定がご使用になるネットワーク環境に適応した内容になっていることを確認してください。なお、本製品をクライアントとして使用する場合は、DHCPサーバ機能を「無効」にし、ご使用になるネットワーク環境に合わせてIPアドレスを割り当ててください。

●設定画面の表示方法

- ・ Windows 2000では、[スタート]→[設定]→[ネットワークとダイヤルアップ接続]を選択し、「ローカルエリアの接続」を右クリックしてプロパティを表示します。なお、表示名称は異なることがあります。
- ・ Windows NT 4.0では、コントロールパネルの「ネットワーク」を選択します。

Mac OSでの設定

Mac OSの場合は、コントロールパネルにある「TCP/IP」を開き、[経由先]を「Ethernet」または「内蔵Ethernet」に設定し、[設定方法]を「DHCPサーバを参照」に設定してください。



7 インターネットへ接続する

Laneed

インターネットに接続できるように基本的な設定をおこないます。ご契約された回線事業者/プロバイダから提供された情報をご用意ください。設定が終わればインターネットに接続できるかをテストします。

MEMO

すでにネットワークを使用している場合

本製品の初期値では既存のネットワークに接続しても認識されない場合があります。本製品にコンピュータを1台接続し、LAN設定を既存のネットワークに接続できるように変更してください。

設定ユーティリティを表示する

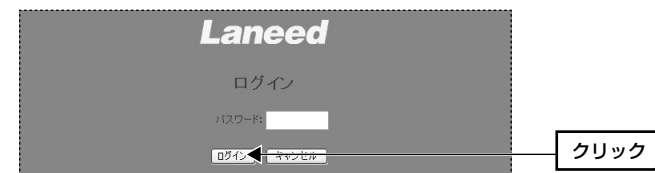
1 Internet ExplorerなどのWebブラウザを起動します。

2 ブラウザのアドレス入力欄に「http://192.168.1.254」と入力したあと、**Enter** キーを押します。



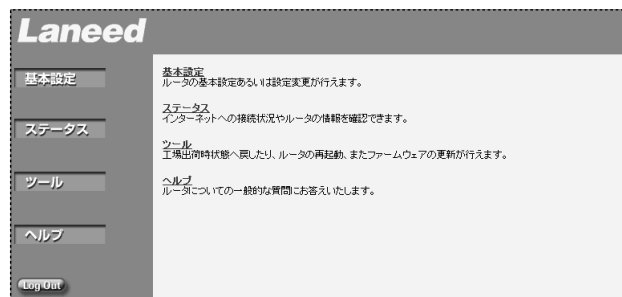
- ・ 1度アクセスしてIPアドレスを変更している場合は、変更後のIPアドレスを入力します。

3 正常にアクセスすると、〈ログイン〉画面が表示されます。はじめてアクセスしたときは、パスワードは入力せずに **ログイン** ボタンをクリックします。



- ・ 2回目以降、パスワードを設定しているときは、パスワードを入力して **ログイン** ボタンをクリックします。

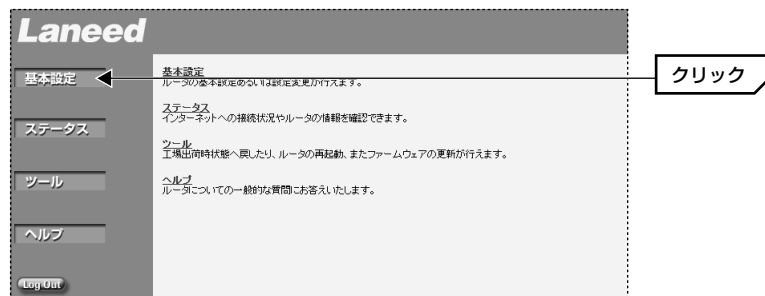
4 〈メインメニュー〉画面が表示されます。



基本設定をおこなう

お手元にご契約の回線事業者/プロバイダから提供された設定資料をご用意ください。

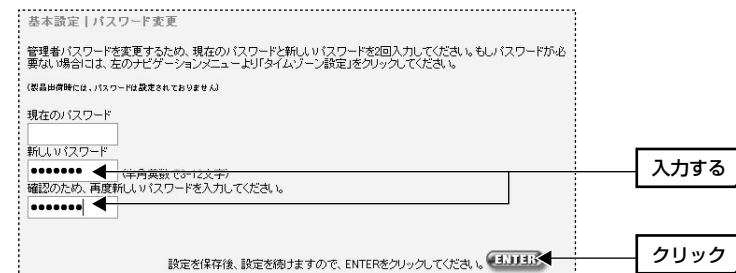
1 〈メインメニュー〉画面で **基本設定** ボタンをクリックします。



2 〈初期設定〉画面が表示されます。 **ENTER** ボタンをクリックします。



3 〈パスワード変更〉画面が表示されます。下記の説明手順でパスワードを設定します。パスワードを設定しない場合は、そのまま **ENTER** ボタンをクリックします。

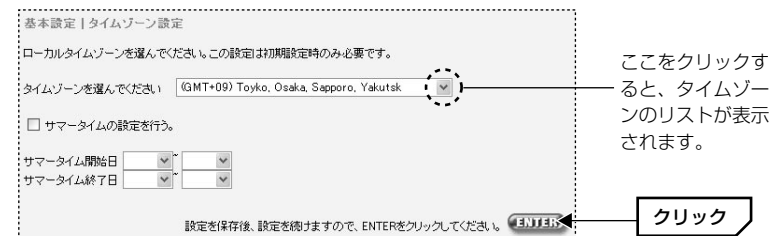


- ①出荷時はパスワードが設定されていませんので、「現在のパスワード」は入力する必要はありません。
 - ②「新しいパスワード」にパスワードに設定したい半角英数字を3～12文字の範囲で入力します。
 - ③確認用の入力欄に、同じパスワードをもう一度入力し、**ENTER** ボタンをクリックします。
- ※パスワードが異なっているとエラーメッセージが表示されますので、入力をやり直してください。



- 不特定多数の人が利用するような環境では、第三者に設定を変更されないように、パスワードを設定するようにしてください。
- パスワードを忘れると、設定をリセットする以外に本製品にアクセスする方法がありません。パスワードはメモするなどして大切に保管してください。

4 〈タイムゾーン設定〉画面が表示されます。通常はそのまま **ENTER** ボタンをクリックします。



タイムゾーン設定を変更する場合は、リストから変更したいタイムゾーンを選択します。また、サマータイムを設定する場合は、「サマータイムの設定を行う」を有効にし、サマータイムの期間を指定します。

- 5** 〈LAN設定〉画面が表示されます。下記の条件に合わせて設定し、**ENTER** ボタンをクリックします。

基本設定 | LAN 設定

IP アドレス : 192 168 1 254

IP サブネットマスク : 255.255.255.0

DHCP サーバ : ☒ 有効 ☐ 無効

リース期限 : 永久

IPアドレスプール

開始 IP : 192 168 1 100

終了 IP : 192 168 1 140

ドメイン名 : WorkGroup

設定を保存後、設定を続けますので、ENTERをクリックしてください。 **ENTER**

クリック

●現在はネットワークによるデータ交換をしていない場合

初心者の方にも簡単にネットワークが利用できる標準的な設定になっていますので変更の必要はありません。

●すでにネットワークを使用してデータの交換をしている場合

既存のネットワーク設定を受け継ぐ必要がある場合は、現在のネットワーク設定に設定を合わせる必要があります。各項目の内容を参考に設定を変更します。

項 目	内 容
IPアドレス	本製品のIPアドレスを設定します。ご使用中のネットワークのIPアドレスと異なる場合は設定を変更します。
IPサブネットマスク	255.255.255.0固定です。
DHCPサーバ	本製品のDHCPサーバ機能を利用する場合は「有効」を選択します。他にDHCPサーバがある場合やIPアドレスを固定する場合は「無効」を選択します。
リース期限	DHCPサーバを有効にした場合に設定します。DHCPサーバが各クライアントに割り当てるIPアドレスの期限を設定します。リース期限を限定すると、期限が来たあとに各クライアントのIPアドレスは再度割り当てられます。
IPアドレスプール 開始IP/終了IP	DHCPサーバが自動的に割り当てるIPアドレスの範囲を指定します。
ドメインネーム	LAN型タイプでインターネットに接続する場合に入力が必要があります。回線事業者/プロバイダより入力の指示があった場合に入力します。

- 6** 〈WAN設定〉画面が表示されます。回線事業者/プロバイダとの契約内容に合わせて接続タイプを選択し、**設定を行う** ボタンをクリックします。選択した接続タイプにより進む手順番号が異なります。下記の表の説明ページの指示に従ってください。

基本設定 | WAN 設定

インターネットへの接続タイプを選んでください。

接続タイプ	用途
☐ 動的IPアドレス	ISPへ接続時にIPアドレスを取得する場合に使用します。
☐ 静的IPアドレス	ISPより特定のIPアドレスが割り振られている場合に使用します。
☒ PPP over Ethernet	PPPoE接続の場合に使用します。

設定を行う

いずれかを選択

クリック

接続タイプ	内 容	説明ページ
動的IPアドレス	プロバイダから固定IPアドレスを割り当てられていない場合に選択します。この場合、プロバイダに接続するたびにIPアドレスが自動的に割り当てられます。 (例)CATVインターネットサービスでIPアドレスが固定でない場合	次ページの手順 7-A へ進みます。
静的IPアドレス	LAN型のCATVインターネットサービスなどで利用される接続タイプです。プロバイダより固定IPアドレス(特定のIPアドレス)が割り当てられている場合に選択します。 (例)CATVインターネットサービスでIPアドレスが固定の場合	次ページの手順 7-B へ進みます。
PPPoE	プロバイダから接続手順としてPPPoEを利用して接続するように指定されている場合に選択します。 (例)フレッツADSLなど多くのADSLサービス	27ページの手順 7-C へ進みます。

7-A 〈動的IPアドレス〉画面が表示されます。必要な項目を入力し、**(ENTER)** ボタンをクリックします。このあとは手順 **8** へ進みます。

ホスト名	回線事業者/プロバイダから指示されている場合はホスト名を入力します。
MACアドレス	回線事業者/プロバイダによっては、インターネットに接続するネットワーク機器をMACアドレスで管理している場合があります。初期値では本製品のMACアドレスが表示されています。通常はこのまま変更する必要はありませんが、コンピュータのMACアドレスを指定するように指示がある場合は、 MACアドレスのコピー ボタンをクリックすると自動的に設定ユーティリティが起動しているコンピュータのMACアドレスをコピーします。

7-B 〈静的IPアドレス〉画面が表示されます。回線事業者/プロバイダから指示されたIPアドレスなどの必要な項目を入力し、**(ENTER)** ボタンをクリックします。このあとは手順 **8** へ進みます。

7-C 〈PPPoE〉画面が表示されます。回線事業者/プロバイダから指示されたユーザー名などの必要な項目を入力し、**(ENTER)** ボタンをクリックします。このあとは手順 **8** へ進みます。

ユーザー名※	プロバイダより提供されたアカウントを入力します。
パスワード	プロバイダより提供されたパスワードを入力します。「パスワードを再入力してください」に、もう一度同じパスワードを入力します。
サービス名	通常は入力の必要はありません。プロバイダより指示があった場合に入力します。
最大アイドル時間	アイドル時間(インターネットにアクセスしていない時間)が設定した時間を超えるとPPPoEセッションを切断します。「0」に設定すると自動的に切断されません。
自動再接続	この項目をチェックすると、本製品が起動した時点で自動的にインターネットに接続します。また、回線が切断された場合も自動的に再接続します。この項目をチェックした場合は「最大アイドル時間」の設定時間は無効になります。

※「ユーザー名」等の名称は回線事業者/プロバイダによって異なります。例えば、「ユーザー名」はアカウントやIDなどと表記されている場合があります。
フレッツADSLの場合、ユーザー名のあとに「ISP識別子」が必要です。詳しくはフレッツADSLの別紙をお読みください。

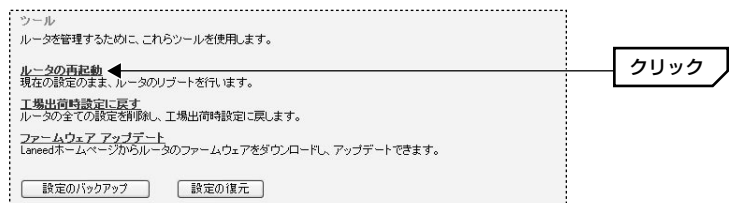
- 8** 〈DNS設定〉画面が表示されます。回線事業者/プロバイダから指示されたDNSアドレスがある場合はアドレスを入力し、**(ENTER)** ボタンをクリックします。指示がない場合はこのまま **(ENTER)** ボタンをクリックします。



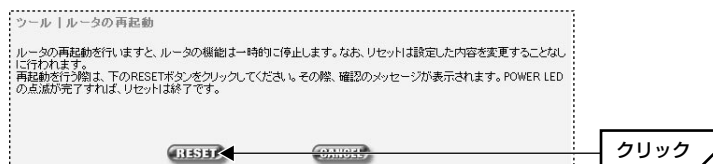
- 9** 〈拡張設定〉画面が表示されます。これで基本設定は完了です。画面上のメニューにある「ツール」をクリックします。



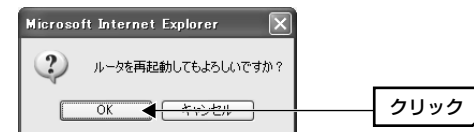
- 10** 〈ツール〉画面が表示されます。「ルータの再起動」をクリックします。



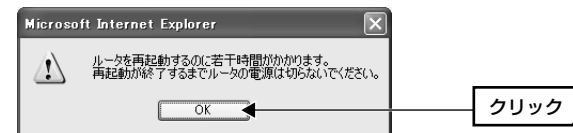
- 11** 〈ルータの再起動〉画面が表示されます。**(RESET)** ボタンをクリックします。



- 12** 再起動を確認する画面が表示されます。**OK** ボタンをクリックします。



- 13** 再起動時の注意画面が表示されます。内容を確認したうえ、**OK** ボタンをクリックします。



再起動中にPowerランプが点滅します。この点滅が完了し、点灯するまでは絶対に本製品の電源を切らないでください。再起動中に電源を切るとファームウェアが壊れて起動できなくなる恐れがあります。

- 14** しばらくすると〈ログイン〉画面が表示されます。**ログイン** ボタンをクリックします。



・パスワードを設定した場合はパスワードを入力します。

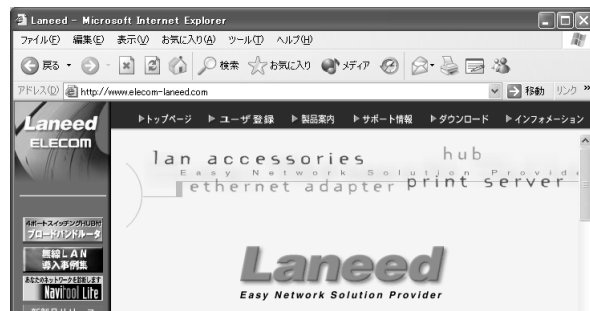
これでインターネットへの接続に関する基本設定は完了です。次に、インターネットに接続できるかを確認します。次ページの「インターネットに接続する」へ進みます。

インターネットに接続する

基本設定が終わればインターネットに接続できるかをテストします。

1 Internet ExplorerなどのWebブラウザを起動します。

2 任意のホームページアドレスを入力し、キーボードの **[Enter]** キーを押します。



◆<http://www.elecom-laneed.com>を入力した場合

※画面例の表示内容は更新により、変更されることがあります。

目的のホームページが表示されれば設定は完了です。正常に表示されない場合は、49ページ「9.こんなときは」をお読みください。

他の詳細な設定項目については、次ページの「8.設定画面のリファレンス」をお読みください。

8 設定画面のリファレンス

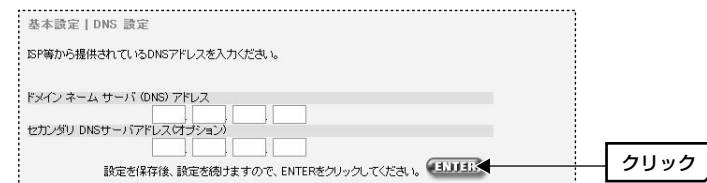
Laneed

本製品には、基本設定だけでなく、さまざまな拡張機能があります。ここでは、拡張機能の設定画面の内容について説明します。

変更した設定を有効にするには

各設定画面で設定を変更した場合は、次の手順で設定を保存してから本製品を再起動してください。

1 設定を変更した画面にある **(ENTER)** ボタンをクリックします。



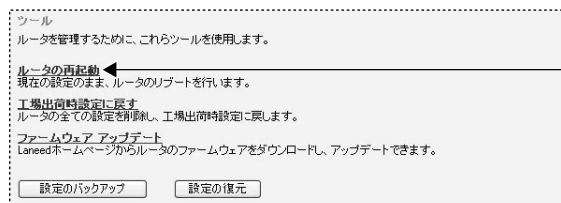
※DNS設定画面の例

2 設定画面が次の設定項目の画面に移動します。画面の上方にある「ツール」をクリックします。

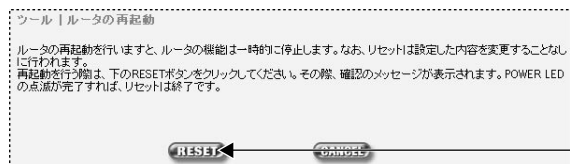


※DNS設定画面で **(ENTER)** ボタンをクリックし、拡張設定画面に移動した例

3 <ツール> 画面が表示されます。「ルータの再起動」をクリックします。



4 <ルータの再起動> 画面が表示されます。(RESET) ボタンをクリックします。



5 このあとは画面のメッセージに従って再起動してください。



再起動中にPowerランプが点滅します。この点滅が完了し、点灯するまでは絶対に本製品の電源を切らないでください。再起動中に電源を切るとファームウェアが壊れて起動できなくなる恐れがあります。

MEMO

各画面の設定は、それぞれの画面にある (ENTER) ボタンをクリックすることで保存されます。また、保存した設定を有効にするには、本製品を再起動する必要があります。複数の画面の設定を変更した場合は、それぞれの画面で (ENTER) ボタンをクリックし、最後に画面上の「ツール」から本製品を再起動するようにしてください。

基本設定の設定画面

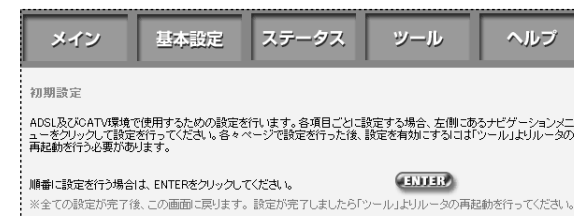
基本設定の画面については、21ページ「7.インターネットへ接続する」の操作手順で説明しています。下記の一覧から参照ページおよび手順へ進んでください。

MEMO

変更した設定の保存と再起動の方法

各画面で設定を変更した場合は、設定の保存と本製品を再起動する操作が必要です。31ページ「変更した設定を有効にするには」をお読みなり、設定の保存と再起動を実行してください。

◆ <基本設定> 画面



項 目		内 容	参照ページ
パスワード変更		設定ユーティリティにアクセスするためのパスワードを設定/変更します。	23ページ 手順 3 参照
タイムゾーン設定		タイムゾーンを設定します。	23ページ 手順 4 参照
LAN設定		LAN側のIPアドレス等の設定をします。	24ページ 手順 5 参照
WAN設定	動的IPアドレス	WAN側が動的IPアドレスの場合の設定をします。	26ページ 手順 7-A 参照
	静的IPアドレス	WAN側が静的IPアドレスの場合の設定をします。	26ページ 手順 7-B 参照
	PPPoE	WAN側がPPPoE接続の場合の設定をします。	27ページ 手順 7-C 参照
DNS設定		回線事業者またはプロバイダからDNSを設定するように指示がある場合に設定します。	28ページ 手順 8 参照

ファイアウォール

本製品にはNAT/IPマスカレードによる簡易ファイアウォール機能とは別に、WAN側から「IPスプーリング」「TCP Null Scan」「TCP SYM Flooding」「Snork Attack」「UDP Port Loopback」「Smurf Attack」「Zero Length IP」「Ping of Death」などのアタックソフトを使った攻撃があった場合にログに保存することができます。なお、この機能を有効にしてもシステムのパフォーマンスが落ちることはほとんどありません。

MEMO

変更した設定の保存と再起動の方法

各画面で設定を変更した場合は、設定の保存と本製品を再起動する操作が必要です。31ページ「変更した設定を有効にするには」をお読みなり、設定の保存と再起動を実行してください。

◆〈ファイアウォール〉画面

基本設定 | 拡張設定 | ファイアウォール

ハッカーからの攻撃監視やログ採取機能を有効にしますか？

☐ いいえ ☒ はい

設定を保存後、設定を開きますので、ENTERをクリックしてください。 **ENTER**

●ハッカーからの攻撃監視やログ採取機能を有効にしますか？

「はい」を選択するとWAN側から「IPスプーリング」などの攻撃があった場合に、攻撃があったことをログに保存します。ただし、この機能はWAN側からのすべての攻撃のログを保存できるものではありません。

バーチャルサーバ

バーチャルサーバ機能は、LAN上にあるクライアント(コンピュータ)をインターネットサービスに開放することができる機能です。通常NAT変換を利用するルータでは、WAN側(インターネット側)からLAN上のクライアントにアクセスすることはできませんが、バーチャルサーバ機能を利用すると本製品のWAN側に対する接続要求をLAN側の特定のクライアントに転送することができます。インターネットではサービスごとに接続ポートが決められているので、あらかじめ各サービス(ポート)に接続するクライアントを登録しておくことで、WAN側に接続要求があった場合に、ポートに対応したクライアントに転送することができます。本製品では最大20個のバーチャルサーバを登録することができます。

MEMO

変更した設定の保存と再起動の方法

各画面で設定を変更した場合は、設定の保存と本製品を再起動する操作が必要です。31ページ「変更した設定を有効にするには」をお読みなり、設定の保存と再起動を実行してください。

◆〈バーチャルサーバ〉画面

基本設定 | 拡張設定 | バーチャルサーバ

	プライベート IP	ポート番号	タイプ	公開ポート
1.	192.168.1.		☒ TCP ☐ UDP	
2.	192.168.1.		☒ TCP ☐ UDP	
3.	192.168.1.		☒ TCP ☐ UDP	

●プライベートIP

LAN側のクライアントのIPアドレスを入力します。LAN側のクライアントのIPアドレスは必ず固定されるようにTCP/IPのプロパティでIPアドレスを手動で割り当ててください。

●ポート番号

WAN側と接続するクライアントのポート番号を入力します。WAN側に公開しているポートと同じポート番号でよい場合は、「公開ポート」と同じ番号を入力します。

●タイプ

使用するプロトコルの種類をTCPまたはUDPから選択します。

●公開ポート

WAN側に公開するポート番号を入力します。一般的にサービスによって公開するポート番号は決まっています。例：WWWサーバなら80

MEMO

IPアドレスの設定について

DHCPサーバ機能を利用している場合は、バーチャルサーバとして公開するコンピュータのIPアドレスが固定されるように次の手順で設定してください。

- ① 〈LAN設定〉画面の「IPアドレスプール」で設定したIPアドレスの範囲を確認します。
- ② バーチャルサーバとして公開するコンピュータのネットワーク設定にあるTCP/IPのプロパティを開きます。①で確認したIPアドレスの範囲外にあるIPアドレスを手動で設定します。
- ③ ②で設定したIPアドレスを「プライベートIPアドレス」に入力します。

例 IPアドレスプールが192.168.1.1～99 の場合

公開するコンピュータのTCP/IPのプロパティで「192.168.1.100」以降のIPアドレスを手動で設定します。

特殊AP設定

インターネットゲーム、ビデオ会議、インターネット電話などのアプリケーションでは、特定のポートへの接続を要求することがあります。通常NAT変換を利用するルータでは、WAN側(インターネット側)からLAN上のクライアント(コンピュータ)にアクセスすることはできませんが、特殊AP機能を利用するとアクセスすることができます。DMZ機能との違いは、指定したクライアントをWAN側に全面開放するのではなく、あくまでも指定された特定のポートだけを開放するため、指定外のポートへのアクセス要求は拒否することができる点です。なお、ポートが開放されるクライアントは、最初に対象となるアプリケーションを起動したクライアントだけです。なお、ポートが開放されるクライアントは、最初に対象となるアプリケーションを起動したクライアントだけです。

MEMO

変更した設定の保存と再起動の方法

各画面で設定を変更した場合は、設定の保存と本製品を再起動する操作が必要です。31ページ「変更した設定を有効にするには」をお読みなり、設定の保存と再起動を実行してください。

◆〈特殊AP〉画面

基本設定 | 拡張設定 | 特殊AP

設定したい情報を入力してください。

トリガーポート	トリガータイプ	公開ポート	公開タイプ	有効
1. 28800	☐ TCP ☒ UDP	2300-2400,47624	☐ TCP ☒ UDP	☒
2. 28800	☐ TCP ☒ UDP	2300-2400,47624	☒ TCP ☐ UDP	☒
3.	☐ TCP ☐ UDP		☐ TCP ☐ UDP	☐

●トリガーポート

使用するアプリケーションが発行するアウトバウンドポート番号を指定します。

●トリガータイプ

使用するアプリケーションのプロトコルの種類をTCPまたはUDPから選択します。

●公開ポート

トリガーパケットが検出されたときに開放するLAN側のコンピュータのポート番号を指定します。連続したポート番号は「-」で指定することができます。

●公開タイプ

公開ポートのプロトコルの種類をTCPまたはUDPから選択します。

●有効

ここをチェックすることで登録した内容が有効になります。この項目を変更したときは必ず設定を保存しなおしてください。

クライアントフィルタリング

クライアントフィルタリングでは、WAN側からLAN側へのアクセスを制限することができます。IPアドレスフィルタリング、ポートフィルタリング、パケットフィルタリングの3つを組み合わせることができます。また、アクセスを制限する時間を指定することもできます。登録できる件数は6件までですが、1件ごとに複数のIPアドレスやポート番号を指定することができます。

MEMO

変更した設定の保存と再起動の方法

各画面で設定を変更した場合は、設定の保存と本製品を再起動する操作が必要です。31ページ「変更した設定を有効にするには」をお読みなり、設定の保存と再起動を実行してください。

◆〈クライアントフィルタリング〉画面

基本設定 | 拡張設定 | クライアントフィルタリング

	IP	ポート	タイプ	ブロック期間	曜日	時間	有効
1.	192.168.1.20 ~ 20	80 ~ 80	☒ TCP ☐ UDP	☐ なし ☐ あり	月 ~ 日	8:00am ~ 11:00pm	☒
2.	192.168.1.25 ~ 30	21 ~ 110	☒ TCP ☐ UDP	☐ なし ☐ あり	月 ~ 日	~	☐
3.	192.168.1. ~	~	☐ TCP ☐ UDP	☐ なし ☐ あり	月 ~ 日	~	☐

ここをチェックしないと登録した内容は実行されません。

●IP

クライアントフィルタリングの対象になるコンピュータのIPアドレスを入力します。範囲指定することで複数のコンピュータを対象にすることができます。1台だけを対象にしたい場合は、前後に同じIPアドレスを入力します。「.」「-」「:」などによる指定はできません。

例1：192.168.1.25から192.168.1.30までを対象にする場合

192.168.1.25 ~ 30

例2：192.168.1.20だけを対象にする場合

●ポート

フィルタリングするポート番号を入力します。範囲指定することで複数のポート番号を対象にすることができます。1つのポート番号だけを対象にしたい場合は、前後に同じポート番号を入力します。入力例は「IPアドレス」を参考にしてください。「,」「-」「:」などによる指定はできません。

●タイプ

制限するプロトコルの種類を選択します。

●ブロック期間

フィルタリングを実行する時間を指定する場合は「あり」を選択します。「なし」を選択した場合は常時フィルタリングされます。「あり」を選択した場合は曜日とタイマ(時間)を指定します。

◆ブロック期間の設定の例について

この場合、月～金曜日の間、毎日午前8時～午後11時までフィルタリングが実行されます。

(注)月曜日の午前8時から金曜日の午後11時までの間ずっとフィルタリングされるという意味ではありませんのでご注意ください。

●曜日/時間

「ブロック期間」で「あり」を選択した場合、フィルタリングを実行する曜日と時間の範囲を指定します。特定の曜日だけ実行したい場合は、上下に同じ曜日を指定します。

例1：月曜日から金曜日まで実行する場合

例2：日曜日だけ実行する場合

●有効

ここをチェックすることで登録した内容が有効になります。この項目を変更したときは必ず設定を保存しなおしてください。

その他の項目

管理者の設定などその他の項目を設定します。

MEMO

変更した設定の保存と再起動の方法

各画面で設定を変更した場合は、設定の保存と本製品を再起動する操作が必要です。31ページ「変更した設定を有効にするには」をお読みなり、設定の保存と再起動を実行してください。

◆〈その他の項目〉画面

●管理者タイムアウト

ログインした設定ユーティリティに対して設定した時間の間に何も操作がなかった場合に自動的にログアウトします。「0」に設定するとこの機能は無効になります。

●WAN側のポートに対してPINGを受け付けない

チェックボックスをチェック(有効に)すると、WAN側からのPINGを受け付けなくなります。

●リモート管理者ホスト

インターネット側から本製品の設定ユーティリティにアクセスしたい場合にWAN側から接続するコンピュータのIPアドレスを設定します。なお、LAN上でログインしているクライアントがあると接続できません。



リモート管理者ホストを有効にすると、Webサーバポート番号は88になります。クライアントから本製品にアクセスしても設定ユーティリティが表示されない場合は、IPアドレスのあとに「:88」と入力してください。

●DMZホストIPアドレス

WAN側に開放したいコンピュータのIPアドレスを指定します。チェックボックスをチェックすると、指定したIPアドレスがDMZホストとしてWAN側に開放されます。

MEMO DMZ機能とは…

通常NAT変換を利用するルータでは、WAN側(インターネット側)からLAN上のコンピュータにアクセスすることはできないため、インターネットゲームなどを利用することができません。DMZ機能を利用すると指定したクライアント(コンピュータ)へのWAN側からのアクセスを許可するのでインターネットゲームなどを楽しむことができます。



この機能を有効にすると、指定したIPアドレスを持つクライアントは、WAN側から自由にアクセスできるようになるため、不正侵入されやすくなります。この機能を利用するときはファイアウォールなどのセキュリティを十分に注意してください。

PPPoE MTU

PPPoE接続でインターネットに接続する場合、MTU(Maximum Transmission Unit)の値を調整することで速度が向上することがあります。MTU値は1回のデータ転送における最大のデータ量を設定した値です。データがMTU値より大きい場合は分割して転送されることになります。この値をご使用の環境に最適な状態にすることで転送速度が向上します。設定できる範囲は1440～1492の間です。



MTU値の設定を変更するとシステムが起動しないなどの不具合が生じる場合があります。Windowsに関する十分な知識がある場合にのみご使用ください。また、変更する場合は既存のレジストリのバックアップを取ることをお勧めします。

MEMO 変更した設定の保存と再起動の方法

各画面で設定を変更した場合は、設定の保存と本製品を再起動する操作が必要です。31ページ「変更した設定を有効にするには」をお読みなり、設定の保存と再起動を実行してください。

◆〈PPPoE MTU〉画面

基本設定 | 基本設定 | PPPoE MTU

アイテム	設定
MTU for PPPoE	1492 1440 ≤ 4桁の数字 ≤ 1492

設定を保存後、設定を閉じますので、ENTERをクリックしてください。 **ENTER**

●設定

入力欄に1440～1492の4桁の整数を入力します。

ステータス

本製品のさまざまな状況を表示します。

◆〈ステータス〉画面

ステータス

インターネット
 ケーブル/DSL: 切断
 ゲートウェイ: 202
 セカンダリ DNS: 202

ゲートウェイ
 IP アドレス: 192.168.1.254
 サブネットマスク: 255.255.255.0
 DHCP サーバ: 有効
 ファイアウォール: 有効

インフォメーション
 接続クライアント数: 1
 ランタイムコンフィグ: V1.00
 フォトコリダクション: V1.00
 LANポートのMACアドレス: 00-80-80-80-80-80
 WANポートのMACアドレス: 00-80-80-80-80-80
 ハードウェアバージョン: 01
 シリアルナンバー: 0

セキュリティ ログ
 外部からルータへのアクセス情報
 2002/01/01 00:19:16 PPPoE stop PPP
 2002/01/01 00:19:16 PPPoE stop
 2002/01/01 00:20:18 192.168.1.16 logout
 2002/01/01 00:20:52 192.168.1.16 login su
 2002/01/01 00:20:59 PPPoE send PADI
 2002/01/01 00:20:59 PPPoE receive PADO
 2002/01/01 00:20:59 PPPoE send PADR
 2002/01/01 00:20:59 PPPoE receive PADS
 2002/01/01 00:20:59 PPPoE start PPP

DHCP クライアント ログ
 DHCP クライアント情報
 . IP=192.168.1.16; MAC=0x d; hos

セーブ クリア

外部からルータへのアクセス情報の表示内容を消去します。
外部からルータへのアクセス情報をログとして保存します。

●インターネット

WAN側の接続状況を表示します。

●ゲートウェイ

IPアドレス、DHCPサーバ、NAT、ファイアウォールなどゲートウェイの情報を表示します。

●インフォメーション

接続されているクライアントの数、本製品のファームウェアのバージョンなどを表示します。

●外部からルータへのアクセス情報

外部から本製品へのアクセス情報を表示します。表示した内容をLogファイルとして保存することができます。保存方法については次ページの「ログを保存する」をお読みください。

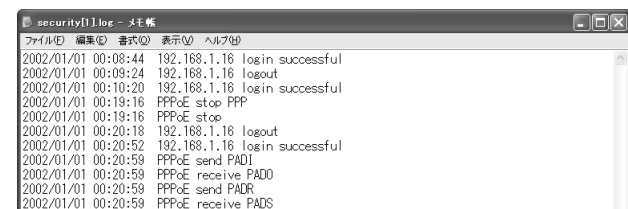
ログを保存する

「外部からルータへのアクセス情報」をログとして保存することができます。保存したログはエディタなどで見ることができます。

1 セーブ ボタンをクリックします。



2 「メモ帳」が開きログが表示されます。



3 「メモ帳」のメニューバーで[ファイル]→[名前を付けて保存]を選択します。

4 <名前を付けて保存> 画面が表示されます。保存する場所とファイル名を指定し、**保存** ボタンをクリックします。

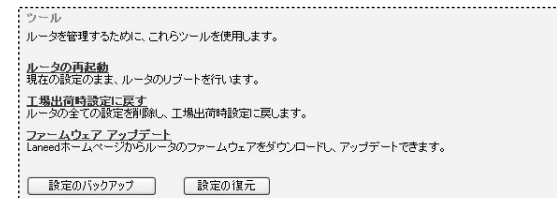


5 「メモ帳」を閉じます。

ツール

〈ツール〉画面の内容について説明します。

◆ 〈ツール〉画面



●ルータの再起動

設定を変更した場合など、新しい設定を有効にするために本製品を再起動します。再起動の手順については、28ページ手順 **10** ~ **14** をお読みください。

●工場出荷時設定に戻す

本製品の設定を工場出荷時の状態に戻すことができます。Resetスイッチ (➡52ページ参照)を押したのと同じ機能です。設定したすべての内容が失われますのでご注意ください。

●ファームウェア アップデート

本製品のファームウェアを最新の内容にアップデートすることができます。操作方法については47ページ「ファームウェアを更新する」をお読みください。

●設定のバックアップ/設定の復元

設定した内容をファイルとして保存することができます。また、このファイルを使って保存した設定内容を復元することができます。操作方法については次ページの「設定をバックアップする」をお読みください。

設定をバックアップする

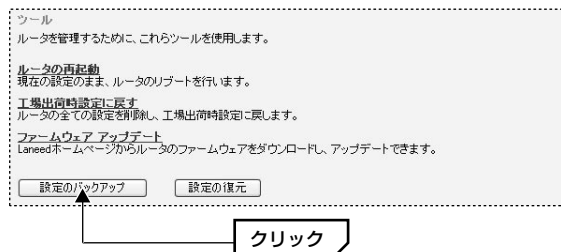
設定した内容をファイルとして保存することができます。また、このファイルを使って保存した設定内容を復元することができます。説明はWindows XPを使っています。

設定をバックアップする

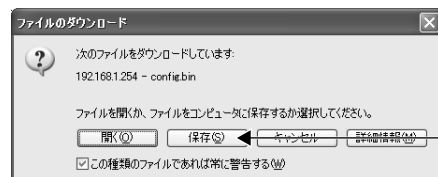
- 1 設定ユーティリティの画面上部にある「ツール」をクリックし、〈ツール〉画面を表示します。



- 2 設定のバックアップ ボタンをクリックします。

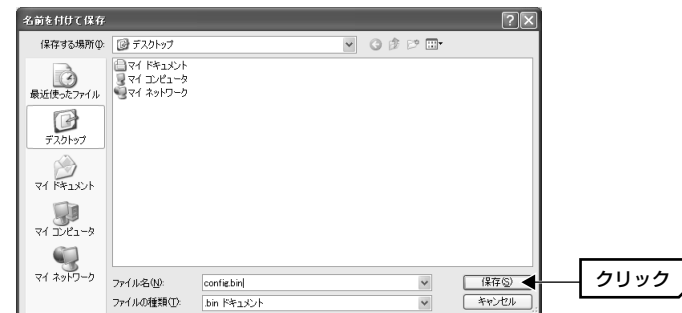


- 3 〈ファイルのダウンロード〉画面が表示されます。「保存」ボタンをクリックします。



※Windows XP以外では「このファイルをディスクに保存する」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。

- 4 〈名前を付けて保存〉画面が表示されます。保存する場所とファイル名を指定し、「保存」ボタンをクリックします。

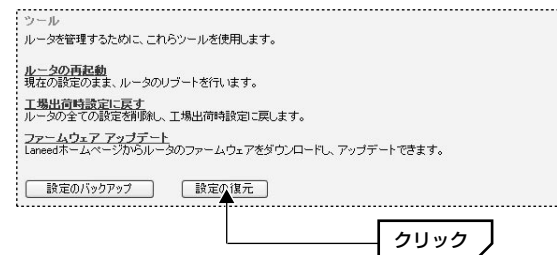


- 5 保存が完了すると、〈ダウンロードの完了〉画面が表示されます。「閉じる」ボタンをクリックします。これで設定が保存されました。

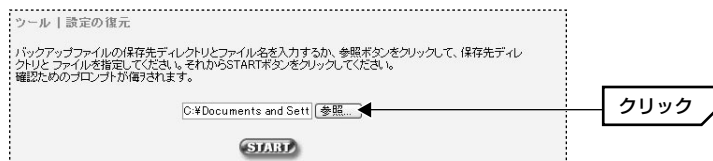
設定を復元する

保存したファイルを使って設定を復元します。

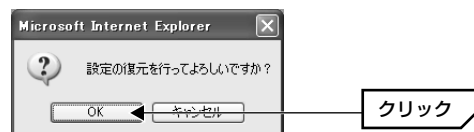
- 1 〈ツール〉画面にある「設定の復元」ボタンをクリックします。



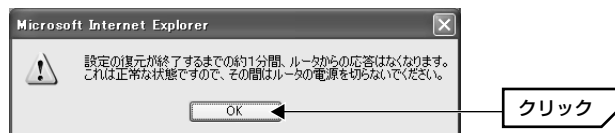
- 2** 「設定の復元」画面が表示されます。ファイルのある場所とファイル名を直接入力するか、**参照** ボタンをクリックしてファイルを指定します。ファイルを指定したら、**(START)** ボタンをクリックします。



- 3** 設定の復元を確認する画面が表示されます。**OK** ボタンをクリックします。



- 4** 注意画面が表示されます。内容を確認したうえ、**OK** ボタンをクリックします。



再起動中にPowerランプが点滅します。この点滅が完了し、点灯するまでは絶対に本製品の電源を切らないでください。再起動中に電源を切るとファームウェアが壊れて起動できなくなる恐れがあります。

- 5** しばらくすると〈ログイン〉画面が表示されます。これで復元された設定内容で起動しました。

ファームウェアを更新する

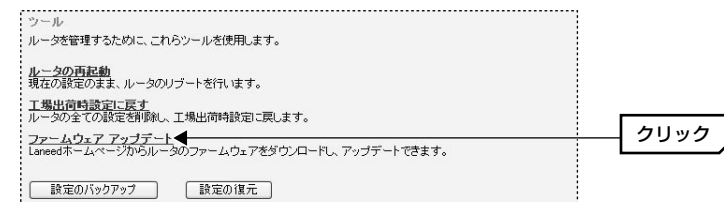
ファームウェアを更新すると本製品の機能が向上したり、動作が安定したりします。ファームウェアが更新されると弊社ラニード・ホームページ(<http://www.elecom-laneed.com>)にアップデータが掲載されますので、定期的に弊社ラニード・ホームページをご覧ください。

- 1** 弊社ラニード・ホームページなどからアップデータをダウンロードしておきます。

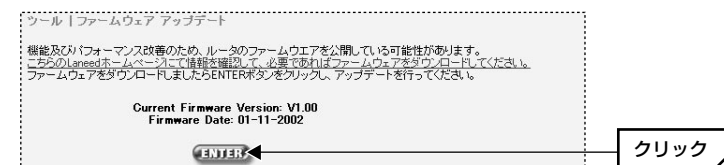
- 2** 本製品の設定ユーティリティを表示し、ログイン後に画面上部にある「ツール」をクリックします。



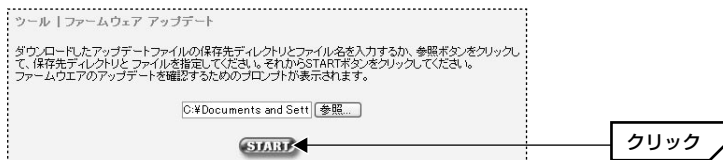
- 3** 〈ツール〉画面が表示されます。「ファームウェア アップデート」をクリックします。



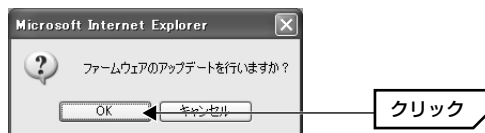
- 4** 〈ファームウェア アップデート〉画面が表示されます。**(ENTER)** ボタンをクリックします。



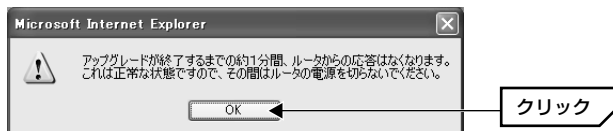
- 5** ファイルのある場所とファイル名を直接入力するか、**参照** ボタンをクリックしてファイルを指定します。ファイルを指定したら、**START** ボタンをクリックします。



- 6** アップデートを確認する画面が表示されます。**OK** ボタンをクリックします。



- 7** 注意画面が表示されます。内容を確認したうえ、**OK** ボタンをクリックします。



再起動中にPowerランプが点滅します。この点滅が完了し、点灯するまでは絶対に本製品の電源を切らないでください。再起動中に電源を切るとファームウェアが壊れて起動できなくなる恐れがあります。

- 8** しばらくすると〈ログイン〉画面が表示されます。これでファームウェアが更新されました。

9 こんなときは

Lanetel

インターネットに接続できない

- インターネットへ接続するための契約などはすべて完了していますか？ 屋内への回線引き込み工事およびモデムの準備は完了していますか？

➡すべての契約と工事が完了していないと、本製品のセットアップが終わってもインターネットに接続することはできません。

- 本製品のPowerランプおよびモデムの電源ランプは点灯していますか？

➡電源コードまたはACアダプタが正しく接続されているか確認してください。ACアダプタは各製品に付属のものをお使いください。

- モデムとWAN側の回線は正しく接続されていますか？

➡モデムのLEDインジケータなどを確認してください。詳しくはモデムのマニュアルをお読みください。

- モデム～本製品間はイーサネットケーブルで正しく接続されていますか？ リンクは確立していますか？

➡イーサネットケーブルが正しく接続されていても、ストレート/クロスの変換が必要な場合があります。本製品のWANランプが点灯していない場合は、モデム側でストレート/クロスの切替スイッチを切り替えるなどしてください。

- 各コンピュータ(クライアント)と本製品はイーサネットケーブルで正しく接続されていますか？ リンクは確立していますか？

➡コンピュータを起動して本製品の各ポートのLink/Actランプが点灯しているかを確認してください。点灯していない場合はケーブルの接触不良や断線などが考えられます。

- クライアント(コンピュータ)にTCP/IPプロトコルが設定されていますか？ IPアドレスは自動取得になっていますか？

➡クライアント側のネットワーク設定が正しくないとインターネットに接続できません。プロトコルにTCP/IPが設定されているかを確認してください(➡15ページ参照)。ただし、ネットワーク管理者が存在するネットワークの場合は管理者に確認してください。

●クライアント(コンピュータ)のWebブラウザのアドレスに、本製品のLAN側のIPアドレス(初期値は192.168.1.254)を入力すると、設定ユーティリティの〈ログイン〉画面が表示されますか？

→〈ログイン〉画面が表示される場合は、クライアント～本製品間は正常につながっています。表示されない場合は、ケーブルの問題またはコンピュータ側のネットワーク設定の問題が考えられます。また、クライアント側のIPアドレスなどが正常に取得されていないことが考えられます。Windows Me/98の場合は、コンピュータの[スタート]→[ファイル名を指定して実行]で「winipcfg」と入力し、そのクライアントのIPアドレスやサブネットマスクなどの情報を確認してください。これらの情報が正しくない場合は「すべて書き換え」を選択し、再取得してください。Windows XP/2000/NT 4.0ではコマンドプロンプトで「ipconfig」を実行します。詳しくは次ページの「IPアドレス等がわからない」をお読みください。

●プロバイダの接続タイプと、基本設定で選択した接続の種類が一致していますか？

→接続の種類が異なると正しく接続できません。接続の種類がわからない場合は、本製品の接続タイプを説明し、どのタイプが該当するかをプロバイダにお尋ねください。

●基本設定の設定内容は正しいですか？

→各項目の入力項目が正しいかを確認してください。特にパスワードは表示されないため、入力ミスがあってもわかりませんのでご注意ください。

●ネットワーク設定などを変更していませんか？

→IPアドレスの変更などが関係する設定を変更している場合は、各クライアント(コンピュータ)のIPアドレス等を書き換える必要があります。次ページの「IPアドレス等がわからない」をお読みください。

IPアドレス等がわからない

クライアント(コンピュータ)のIPアドレスがわからない場合は、次の手順で調べてください。

A. Windows XP/2000/NT 4.0の場合

コマンドプロンプトを表示し、「ipconfig」を実行してください。

(例)Windows XPでの実行方法

- ①[スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]を選択します。
- ②「>」の後ろでカーソル点滅していますので、キーボードから「ipconfig」と入力し、**[Enter]** キーを押します。
- ③IPアドレス等が表示されます。

```
C:\Documents and Settings\user>ipconfig

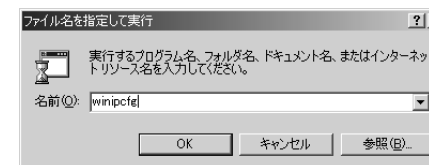
Windows IP Configuration

Ethernet adapter ローカル エリア接続:

    Connection-specific DNS Suffix  . : WorkGroup
    IP Address. . . . . : 192.168.1.16
    Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0
    Default Gateway . . . . . : 192.168.1.254
```

B. Windows Me/98の場合

- ①[スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]を選択します。
- ②「名前」に「winipcfg」と入力し、**[OK]** ボタンをクリックします。



- ③〈IP設定〉画面が表示されます。終了するときは、画面右上の **✕** をクリックします。



- もし、IPアドレス、サブネットマスクなどが正常に取得できていないようであれば、**すべて書き換え** ボタンをクリックします。
- IPアドレス自体が取得できない場合は、クライアントが正常にネットワークに接続されていないか、本製品のDHCPサーバ機能が「使用しない」に設定されているなどが原因として考えられます。

リセットの方法

次の手順で本製品を工場出荷時の初期状態に戻します。

●リセット手順

- ①Powerランプ点灯した状態で、芯の出していないシャープペンシルなどの先の細いものでResetスイッチを5秒以上押しつづけます。
- ②Resetスイッチを放しますと、Powerランプ点滅の後、LANランプ(1から4まで)が点灯します。
- ③LANランプ消灯後、Powerランプだけ点灯すればリセット完了です。

10 サポートサービスについて

Laneed

ラニード製品のサポートサービスについては、下記のプロードバンドルータ専用サポートへお電話またはFAXでご連絡ください。サポート情報、製品情報に関しては、FAX情報、インターネットでも提供しております。なお、サポートサービスを受けるためには、必ずユーザ登録をおこなってください。

●ラニード・ブロードバンドルータ専用サポート

TEL : 03-5798-7900 FAX : 03-3444-8205

受付時間：月～金曜日 9:00～12:00 13:00～19:00(年中無休)
※上記の電話番号は、ブロードバンドルータ専用です。

●インターネット

<http://www.elecom-laneed.com>

●FAX情報サービス

最寄りのサービス情報BOXセンターにお電話ください。
ガイダンスに従って取り出したい情報のBOX番号を指示してください。

メインメニューBOX番号(提供している情報の一覧がFAXされます)

559900

電話番号

東京：03-3940-6000	大阪：06-6455-6000
名古屋：052-453-6000	福岡：092-482-6000
札幌：011-210-6000	仙台：022-268-6000
広島：082-223-6000	

●修理の依頼

本製品が故障した場合には、故障した製品と保証書に、故障状況を記入したものを添えてご連絡ください。

保証期間内

まずは、上記のプロードバンドルータ専用サポートまで電話またはFAXでご連絡ください。

保証期間外

東京都八王子市子安町3-5-2 セキエレクトロニクス株式会社内
 エレコム修理センター
 電話番号 0426-31-0271 FAX番号 0426-31-0272
 受付時間 月曜日～金曜日 9:00～12:00 13:00～17:00
 (ただし、祝祭日および夏期・年末年始特定休業日は除く)
 ※FAXによる受信は24時間おこなっております。

●サポートセンターへお電話される前に

サポートセンターにお電話される前に次の事項を確認してください。

- ・このマニュアルの49ページ「9.こんなときは」をお読みにになりましたか。まだ、お読みでない場合は、お電話の前にお読みください。
- ・システムを起動できる場合は、起動した状態でお電話ください。
- ・異常のある製品を取り付けたコンピュータの前から会話が可能な場合は、コンピュータの前からお電話をおかけください。実際に操作しながらチェックできますので、解決しやすくなります。
- ・FAXを送られる場合は、付属の別紙「トラブルシート」に、できるだけ詳しい内容をご記入ください。

次のことをお調べください。

●ネットワーク構成

使用しているネットワークアダプタ:
 使用しているOS:
 使用しているコンピュータ本体(メーカーおよび型番):
 ネットワークを構成するコンピュータの台数とOSの構成:
 ネットワークを構成するその他の関連機器(HUB、ルータ等) :

●具体的な現象について

具体的な現象:
 事前にお客様が試みられた事項(あればお伝えください):

11

基本仕様

Lanneed

●ルータ部/本体仕様

商品名	4ポートブロードバンドルータ
製品型番	LD-8BR4L
WAN側インターフェイス	10/100Mbps RJ45ポート×1
LAN側インターフェイス	10/100Mbps RJ45ワークステーションポート×4
規格	IEEE802.3/IEEE802.3u
対応回線	FTTH回線/CATV回線/xDSL回線
通信速度	WAN側：10/100Mbps、 LAN側：10Mbps/100Mbps
アドレス変換方式	NAT/IPマスカレード
対応プロトコル	TCP/IP
セキュリティ	パケットフィルタリング NATによる簡易ファイヤウォール、パスワード管理
適合規格	VCCIクラスB情報技術装置準拠
電源/消費電力	電源：DC12V(ACアダプタによる) 消費電力：最大5W
動作温度	0～40℃
動作湿度	5～95%(結露なきこと)
外形寸法	幅190×奥行113×高さ31mm
付属品	ACアダプタ、ユーザ登録カード、保証書

Note

Note

Note

Note

4ポートブロードバンドルータ
LD-BBR4L
ユーザーズマニュアル
発行 エレコム株式会社
2002年2月6日 第1版

Laneed

ELECOM